



—わが心の大地—

# 田中 良 展

TANAKA RYO

平成28年

1月3日回—1月13日**水**

1月7日(木)休廊

午前10時00分—午後6時00分

(最終日午後3時CLOSE)

会場：ギャラリー エスペース

<http://www.gallery-espace.jp/>

作家在廊日

3日(日). 4日(月). 10日(日). 11日(月)

北の岬(小樽)

(油彩 F30号)

ギャラリー SINCE 1996  
**ESPACE**  
エススペース

## 変わらぬ心の置き方

武田 厚

昨年は二科展 100年を迎えての記念行事が続いた。理事長の田中 良さんが殊の外多忙な日々を追われている様子を時々目にした。理事長といえども、というよりは、理事長だからこそ記念行事の様々なセレモニーにも欠くわけにはいかない立場なのであろう。賞の審査に招かれていた私は、そこでも同席する田中さんを見ていた。こまごまといろいろしなければならぬことがあるものだ、と妙な感心をしていた。

二科展の 100年を回顧する非常に魅力的な内容の企画展も記念行事の一つであった。東京の後、大阪、九州と巡回し、評判も上々のようだった。そこでのオープニングにも当然出席し、テープカットや挨拶もしてきたことである。今年九十三歳となる画家の田中 良さんは、何事にも淡々と向き合い、平常心という心の置き方をいつもまったく変えていない優しい人である。

作品もその通りだといつも感じている。厳冬のオホーツクを描いたかつての諸作も近年の二科展の出品作も、田中 良という人間の沈着で穏やかな眼差しの先でとらえた心象の風景である。器用さやモダンさとは別種の心に滲みる作風である。最近の作品では主題も構成もつとめて簡素化され、少し若返った感じがしなくもない。この度は小品展のようだが、九州での取材の作品も交えると、楽しみが増えそうだ。

(たけだ・あつし/美術評論家)



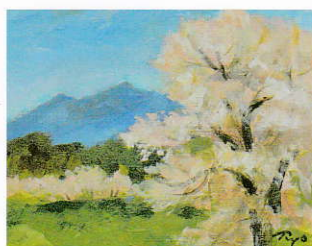
公益社団法人 二科会 理事長 田中 良 近影



第100回記念二科展会場－国立新美術館(六本木)  
理事長としてオープニングのテープカットをする。



船 出(油彩 F 4号)



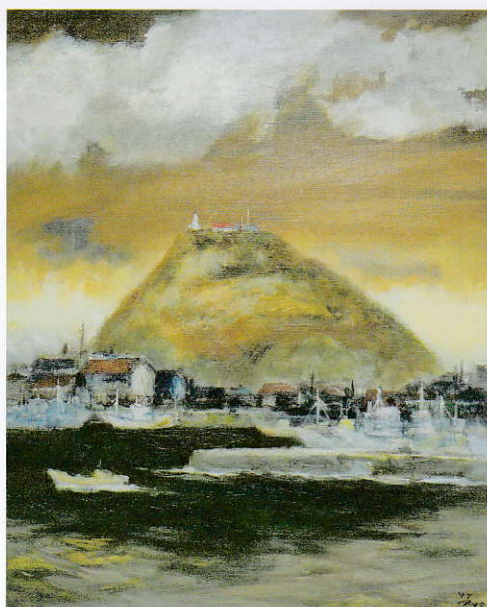
桜花筑波(油彩 0号)



葦 原(油彩 F 4号)



北国風景(油彩 F 10号)



弁天島 (松前) (油彩 F 25号)



オホーツクの海辺(油彩 F 6号)